**２０２３年７月29日(土)　高原美術館会場**

 横澤放川

 生きているだけで自賛の極暑かな 貫　韓山

 車前草や浅間に発す大傾り 小川雪魚

 弓なりに嬰の癇癪雲の峰 石田経治

 鬩ぎ合ふ地熱炎熱大浅間 小川雪魚

〇 日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

 土肥あき子

 涼風の胸所に来ては背に来ては 横澤放川

〇 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

 キャンバスを立て緑陰に風を呼ぶ 海野良子

 日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

 片蔭や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水

 大塚次郎

 赤岳も蓼科山も雲の峰 青木百舌鳥

 万緑の底を二両の見え隠れ 田中幸子

 日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

 万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

〇 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

 星のミラ

 片陰を行けば店主の近寄り来 山本よしえ

 山城の溶岩の石積み蟬時雨 平松貴子

〇 片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

 日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

 行く夏のしな鉄二輌はるか行く 武居玲子

 平松貴子

 赤岳も蓼科山も雲の峰 青木百舌鳥

 みんみんや時の風吹く櫓跡 小川雪魚

 葛の葉に呑みつくされし曲輪跡 宮坂恵子

 別れ道片蔭のある方へ行く 星のミラ

〇 万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

 貫　韓山

 灼けている墓石緑陰にも墓石 大塚次郎

 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

 道おしえ古地図になくも女坂 勝又樂水

 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

〇 青年の御目涼やかに出征す 山本よしえ

 青木百舌鳥

 弓なりに嬰の癇癪雲の峰 石田経治

 片蔭に鳥の骸や虫の死や 土肥あき子

〇 背の高き師を追ひかけて片陰へ 山本よしえ

 火山岩混りの垣や凌霄花 石田経治

 緑陰に長居して貌失へり 海野良子

 海野良子

〇 青山の囲む城跡三尺寝 田中幸子

 石垣の片陰を行く小諸かな 武居玲子

 片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

 涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

 マジシャンのカードの如く黒揚羽 大塚次郎

 勝又樂水

〇 生きているだけで自賛の極暑かな 貫　韓山

 背の高き師を追ひかけて片陰へ 山本よしえ

 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

 山百合や土に還らす石佛 石田経治

 葛の葉に呑みつくされし曲輪跡 宮坂恵子

 山本よしえ

 万緑の一樹となりて吹かれたし 土肥あき子

 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

 みんみんや時の風吹く櫓跡 小川雪魚

 稜線に暑のまとひつく馬頭尊 海野良子

〇 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

 宮坂恵子

 鬩ぎ合ふ地熱炎熱大浅間 小川雪魚

〇 濃紺に一本高き白桔梗 田中幸子

 病葉や生きた証を残さむと 大塚次郎

 山百合や土に還らす石仏 石田経治

 片陰や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水

 小川雪魚

 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

 浅間嶺へ階なせる青田かな 青木百舌鳥

 涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

〇 日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

 マジシャンのカードの如く黒揚羽 大塚次郎

 武居玲子

 日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

〇 首を振る蜻蛉の眼に銀の穹 小川雪魚

 片蔭の尽きて信濃の風に会ふ 貫　韓山

 日盛や百葉箱の中に闇 石田経治

 山城といふ一山の草いきれ 土肥あき子

 田中幸子

 夏白蝶生るるも死すも草の城 宮坂恵子

 山城の溶岩の石積み蟬時雨 平松貴子

〇 浅間嶺へ階なせる青田かな 青木百舌鳥

 涼しさや絵の能面に浮む笑み 大塚次郎

 寝そべつて待てば夏蝶来たりけり 小川雪魚

 石田経治

 涼風の胸所に来ては背に来ては 横澤放川

 片陰を行けば店主の近寄り来 山本よしえ

 涼しかりけり隆起する岩絵の具 土肥あき子

 日覆を真帆のごとくに山の風 横澤放川

〇 片陰や母の手の鳴る方へ向く 勝又樂水